



2018年4月

株式会社三井住友銀行 C A本部 企業調査部
香港駐在 貫井 孟

■ 韓台石化メーカーの投資戦略の変化

韓国、台湾の石油化学産業では、輸出市場での勝ち残りを前提に 1990 年代より大規模なプラントによる一貫生産体制が構築され、それぞれがアジアを代表する石化製品輸出拠点となっています。ここ数年は良好な汎用品の収益環境も寄与し、韓台の石化プレーヤーは高水準の利益を確保してきました。

もともと、将来的には収益環境が変化すると見通されていることから、近年では各社とも投資戦略を変えつつあります。すなわち、汎用品分野では生産規模を維持しつつも、収益源を機能品にシフトさせるよう投資の配分を進めています。

機能品の展開に際しては、主力ユーザーである自動車・電機業界のサプライヤーとのネットワーク構築が必要となるため、足元では技術提携や M&A を通じ事業拡大を図るケースも増えてきました。かかる動きは機能品分野で先行する日米欧石化メーカーにとってもビジネスチャンスとなる半面、中長期的には脅威ともなり得ることから、韓台石化メーカーの動向に注目が集まっています。

汎用品事業の拡大

韓国と台湾の石化メーカーはいずれも、輸入するナフサを原料とし、日本などから技術を導入しつつ石化産業を発展させてきたほか、内需がさほど大きくないため輸出市場での勝ち残りを前提に域内で大規模プラントによる一貫生産体制を構築した、という共通の特徴を有しています。また近年では、事業規模拡大と生産

部門の効率化を重視した人材・投資配分等によりコスト競争力を高めてきました。この結果、それぞれアジアを代表する石化製品輸出拠点となったほか、アジア石化トップ 10 社に韓台メーカーが 3 社ずつ入るなど、アジア石化業界において強い存在感を示しています。また、近年では原油安などに伴う石化製品需要増に伴い、エチレンなど汎用的な石化製品を中心に多くの製品でマージンが拡大するなか、各社高水準の利益を確保しています(図表 1)。

図表 1 韓台石化大手6社(注) 合算営業利益



(資料) 各社アニュアルレポート基に弊行作成

(注) 韓国上位3社(LG Chem、Lotte Chem、SK Innoovation)、台湾上位3社(FCFC、NPC、FPC)

近年の投資動向

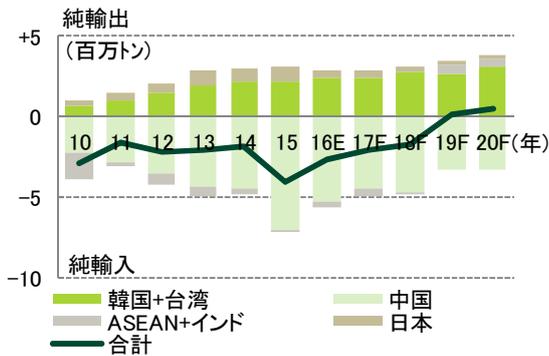
足元好調を維持している韓台石化メーカーですが、主な輸出先であった中国や東南アジアなどにおいて自国産業強化に向けたナフサクラッカーなどの新增設が進みつつある(図表 2)ほか、北米におけるエタンクラッカーなどの立ち上げに伴いコスト競争力の相対的な低下が進むとの見通しを踏まえ、近年は投資戦略の方向性を変えつつあります。すなわち、多

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時時点で弊行が一般に信頼できるとされる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を弊行で保証する性格のものではありません。また、本資料の情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがありますので、ご了承ください。ご利用に際しては、お客さまご自身の判断にてお取扱いいただきますようお願い致します。本資料の一部または全部を、電子的または機械的手段を問わず、無断での複製または転送等することを禁じております。



くのプレーヤーが、汎用品事業の規模は維持しつつも機能品事業に収益源がシフトするよう、投資の配分を進めています。

図表2 アジアの需給動向



(資料) 経済産業省資料を基に弊行作成

現状、韓台ともに機能品セクターの産業規模は小さく、収益貢献は限定的となっています。この背景には、自動車部品や電子部品などに利用する機能品のR&Dや生産技術では日米欧のプレーヤーに一日の長があるほか、韓台プレーヤーは機能品メーカーとしてのブランド認知度を構築していないケースがあることや、主力ユーザーである自動車・電機業界のサプライヤーなどとのネットワーク構築が必要となるものの日米欧と比較するとユーザーサイドの産業規模が小さいことが、機能品事業拡大に際してのネックとされてきました。

ただし最近では、台湾政府が環境規制を強化し汎用品の生産能力拡大および稼動を制限する一方、補助金支給等を通じた石化産業の高付加価値化へのサポートを打ち出しています。また韓国でも政府が2016年より石化業界で自主的な生産能力調整を促す一方、R&Dへのサポートなどを通じて機能品の競争力強化を図

っています。

かかるなか、プレーヤーも技術提携やM&Aを通じた積極的な投資により機能品分野に参入する動きを強めてきました。一部のメーカーはすでにブランド知名度や販売網を有する海外メーカーの協力を得て高付加価値品の生産計画策定や設備の新設を進めており、韓台内において今後の産業規模拡大に対する期待感が高まっています。

先行石化メーカーへの影響

アジアでは自動車、電気製品など多様な製品市場の拡大が見込まれており、その材料である機能品の需要も堅調に増加する見通しです。韓台石化メーカーが同市場において積極的に投資・提携戦略を打ち出し、自社の戦略実現に向けたパートナーシップや技術協力ニーズを示していることは、日系や欧米石化メーカーにとっても、不足しつつある石化原料確保などを通じて機能品事業拡大を図る好機になり得るとみられます。もともと将来的には、機能品の輸出戦略を軸とする日米欧石化メーカーにとって直接の競合となる可能性もあります。

韓台石化メーカーが機能品の事業領域においてどのような戦略を打ち出していくのか、海外メーカーとの連携策も含め、今後の動向が注目されています。(貫井)

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時時点で弊行が一般に信頼できるとされる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を弊行で保証する性格のものではありません。また、本資料の情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがありますので、ご了承ください。ご利用に際しては、お客さまご自身の判断にてお取扱いいただきますようお願い致します。本資料の一部または全部を、電子的または機械的手段を問わず、無断での複製または転送等することを禁じております。